

MONO COTO INNOVATION! 2016

京都の一流の企業から課題を受ける

第一線で活躍されている方々が、中高生を一人前のイノベーターとして見ていただき、容赦ないコメント、ディスカッションなどしてもらえた。

Day2 京都工芸繊維大 DESIGN LABOにて、本物の試作にチャレンジ

プロトタイプの工房ですと言われるもののそこは、がっつり本物をつくれる工場のような機会がそろっている。中高生のアイデアをこんなところでプロトタイピング。



ビジネスのイロハ

アイスブレキングと称して実は名刺交換と自己紹介。お互いを知り合いグループを作るのに有効な組み合わせかどうかを直感的に感じるような教育的な仕掛けが盛りだくさんの教育的演出。見事である。



中高生も大人も本気で挑んだ モノ・コト イノベーション!

「アイデアとか発想とか、時間かけるわりに成果物として残らないことがある。だけど家に帰っても友達とスカイプで真夜中まで議論して積み上げたアイデアを潰して、アイデアだしあってかなり真剣に取り組んだ。HPに出ているプロダクツの分類と分析も深夜になってから始めた。だからどこまでが限界で何が新しいチャレンジなのかも全部わかった。そして最後のプレゼンが終わった時、企業の開発の専門家から質問を





双眼鏡。キャッチコピーだけで、10倍売れるようなキャッチコピーを考えよ！

「交流会ゲーム」という名前でおこなわれたこのワーク。「これ、ゲームじゃなくてれっきしたワークじゃないですか?!」と内心津込みをいれていましたが、交流会のフレームの中でさえこの内容。講義の中身はお伝えできませんが、本当に中高生が羨ましい内容でした。

- マサイを超えよ！
- 今の景色で満足していますか？
- スポーツ選手の息づかいが聞こえる

このようなユニークなキャッチコピーがでてきましたが、実はこれではマーケットで勝負できないとのこと。このキャッチコピー、何が足りないと思いますか？何が間違っていると思いますか？

目からウロコの解説が待ちました。真剣に感動の涙がでるくらいの話がまっているのでした。知りたい方は、参加した生徒まで。
(沼田)

受けたが、その場で頭で考えて応答しようと思っていたけど、答えていたのはもう反射的に体が返答していた。それくらい真剣に取り組んだ企画だった」とは参加した生徒の声。また「エンジニアはアイデアとか発想力とか問題解決力とかそういうのが大事なんじゃない。人に対する優しさがないとできない職業なんだと感じた。だからこのあとも私は、人を思いやる気持ちや優しさを大事に毎日を取り組んでいきたいと思った。エンジニアはすごいと思った。」という感想もきくことができた素敵な企画だった。

Mono Coto Innovation 2016は、昨年東京大会からスタートした。今年は京都、山形、東京で地方大会を開催。京都では、KTC、日本電産、パナソニック、村田製作所などの支援による。キュリオスクールが全国から参加希望中高生を募った大人が本気のデザイン思考ワークショップのコンテストです。スタンフォードのd-schoolから発展してきたデザイン思考のプロセスを日本の子どもたちにも身につけてもらい、社会に貢献



したいという西山さん（キュリオスクール）の熱い思いが伝わるイベントだった。単なるコンテストで賞を決めて終わりのイベントではなく、賞が発表されたあとも「フィードバック」「講義」と続くのである。結局このイベントは、一流の第一線で活躍されている大人たちが、次世代を担う子どもたちにたいして、本気でデザイン思考のスキルや問題解決の手法、イノベーションのノウハウを教え、本気で時代の世界に大人が夢を託すイベントだったのだと伝わってくる。大学教授、一流企業の開発部などの責任ある立場の第一線で活躍される大人たちがここまでそろって3日間、子どもたちのアイデアに本気で「駄目だし」や「もっと出し」を行い、デザイン思考の講義やワークショップ、数々のユニークな演出、本当にすばらしい熱気あふれるイベントだった。

イベントより参加依頼が来まして、6名ほどの希望生徒を3日間連れて行きました。3日間、朝から夕方まで、びっしりのプログラム。しかも、一流企業の開発部、企画部の面々が各企業から数名通われ、開発とは何かを語り、生徒のアイデアに結構まじめに駄目だしをされており、すごかったです。また10代の起業家の方々のショートプレゼン、各企業の課題分析、デザイン思考のノウハウの講義とかなり深いワーク（キュリオスクールの作られた教科書、すごいです）などもすごかったです。

地方予選通過者は、さらに本気の研修が待っている

この3日間が予選では、アイデアのダーティプロトタイプの製作とプレゼンと質疑応答で決勝進出が決まります。決勝進出者には、KTC、日本電産、パナソニックなどの開発部などに直接行って、講義と説明を受け企業の方と一緒にプロトタイプの製作をするようです。キュリオスクール主催のデザイン思考ワークショップ2、3なども受講することになっているようです。そして地方決勝が決まったら全国へと進む模様です。本校からも1名だけ予選通過者ができましたので、どんな教育プログラムがまっているのか楽しみです。一流企業の新人研修を受けられるといっても過言ではない企画。



本当に羨ましい。全国で選ばれると西海岸のスタンフォード大学D-schoolを見学したり教授や院生たちとの交流もあるそうで、驚くべきは、その渡航費も含め、このコンテストへの参加が全員無料というのがすごいです。企業の手厚すぎる支援、いったいどうなっているのかと思いました。

なぜそのアイデア、何のため誰のためのもの、そして今の技術でどの程度可能なのかということのバランス、価値の創造、など思いました。多分これから先は、材質管理や品質保証などの検討が必要でビジネスラインにのせるにはまだまだ超えなければならない課題は山積みなのだろうけど、この入口だけでもとても勉強になりました。（沼田）



